

級

主な食品種類別の食品使用量割合と食品口ス量割合(世帯食一人 1 日当たり)

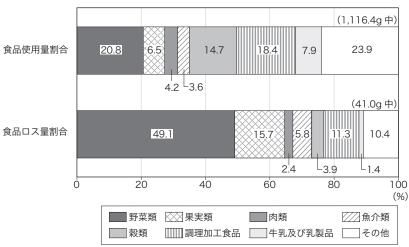
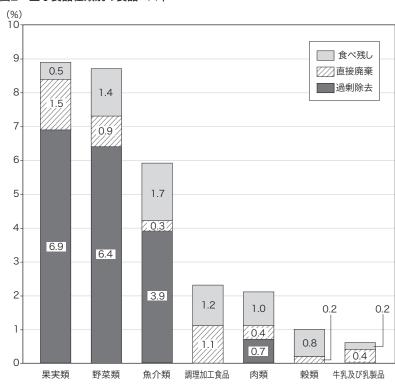


図2 主な食品種類別の食品ロス率



問

後の質問に番号で答えてください。

次の文章は、

家庭における「食品ロス」についての調査結果を見て、

Aさんが書いたものです。この文章について、

^{*}資料:農林水産省「平成21年度食品口ス統計調査(世帯調査)結果の概要」もまた。 *世帯食とは、家庭において調理・食事したもので、外で買ってきて家で食べた惣菜や家で作って外で食べた弁当を含み、 外食や学校給食は除く。

後 援●文部科学省/全国連合小学校長会/全日本中学校長会/全国高等学校長協会/ 全国高等学校国語教育研究連合会/日本商工会議所/経団連事業サービス 他 特別協賛●読売新聞社 協賛●時事通信社/東京書籍

0120-55-2858

(午前9:30~午後5:00土・日・祝日を除く)

[公式ホームページ] https://www.nihongokentei.jp

日本語検定検索

日本の「食」に関しては、「低い食料自給率」の陰に隠れがちであるが、「食品ロス」という問題も存在する。食品ロスとは、食事に使用される食品の重量(以下、食品使用量とする)のうち、本来食べられるにもかかわらず廃棄されるものをいい、その量は事業者(小売店や飲食店等)と一般家庭とをあわせて年間500万~800万トンに及ぶ。食料の多くを輸入に頼りながら、その少なからぬ部分が廃棄されているのだ。事業者の食品ロスは近年減少の兆しが見られるが、一般家庭では横ばいの状態にある。

図1は、一人1日当たりの家庭における食事について、食品使用量に占める主な食品種類別の割合と、食品口ス量に占める主な食品種類別の割合とを比較したものである。これを見ると、食品使用量割合では「野菜類」とインスタント食品や冷凍食品、レトルト食品などの「調理加工食品」が他の食品に比べて高い割合を示している。一方、食品口ス量割合は「野菜類」が49.1%と最も高く、2位以下と(ア)。

食品ロスが生じる(**イ**)は、3つに大別される。それは「食べ残し」「過剰除去」「直接廃棄」である。このうち「過剰除去」は、調理時に大根の皮を厚くむくなど、本来食べられる部分まで調理せずに捨ててしまうことをいう。また「直接廃棄」は、賞味期限切れなどによって使用せずにそのまま廃棄されることをいう。

図2は、食品種類別の食品ロス率を調査した結果であり、(ウ)、本来食べられる部分がどれだけ廃棄されたかを示したものである。これを見ると、「果実類」「野菜類」「魚介類」などの生鮮食品が上位を占めている。生鮮食品は、調理の際に捨ててしまう部分が多いことは、これらの食品の食品ロス率の内訳を見たときに、「過剰除去」が3分の2以上を占めていることからも明らかである。また、これらの食品の状態は(エ)や保存方法に左右されるため、「過剰除去」に加えて「直接廃棄」の割合も高くなるわけである。このように、家庭における食品ロスは、生鮮食品の「過剰除去」「直接廃棄」の影響が最も大きいといえる。したがって、各家庭で食品ロスを減らすためには、生鮮食品の調理・保存方法に留意することが重要にな

このよっに、家庭における食品ロスは、生鮮食品の「過剰除去」「直接廃棄」の影響が最も大きいといえる。 したがって、各家庭で食品ロスを減らすためには、生鮮食品の調理・保存方法に留意することが重要になる。なお、生鮮食品に比べて「調理加工食品」は食品ロス率が低いが、ではその使用量を増やせばよいかというと、そう単純ではない。たとえ家庭において食品ロスが減ったとしても、(オ) からである。家庭だけでなく事業者における食品ロスも考慮した取り組みが求められるわけである。

五 匹 Ξ か。 ウ う オ I う 1 う ア に か 1 か か 4 3 2 1 に に 3 1 1 3 1 に に 入る言葉として、 入る言い 結果 それを加工する小売店や工場での食品ロス量が増大する可 入 入る言葉とし 食品使用量に対して 溝ができて 偏った食事によって栄養バランスが崩れる可能性がある 食品の包装紙等により家庭ごみが増える可能性があ 購 家族構成人数に対 団子状になって 能性があ 食べ残し」 る る言 量 言 1) 2 方と 方として、 方として、 により 2 条件 販 L て、 いる 売 して 食品ロス量が増大する可能性がある て、 最 価 最 3 ŧ 格 最 最 最 ŧ 適 原因 2 4 4 2 ŧ ŧ 適 ŧ 切 食品 家 3 大差がついて 格 適 切 適 適 なものはどれでしょう 庭ごみ なも 差が生じて 切 産 切 切 ロス量に対し なも 地 4 なも な ŧ 0) の排出量に対 特 0) 徴 0) は 0) 4 は どれでしょ は は いる 1) 鮮 どれ どれて る どれでし 度 て L L L 7 か う ょ

日本語検定

総合問題

問2

次の文章は、 後の質問に答えてください。 大学講師のKさんが 「最近の大学生のレポート作成―その問題点」について書いた文章です。この文章につい

してきた。分からないことを調べる、ニュースを読む、息抜きに音楽を聴く、夕飯の買い物をするなど、さまざまなことがインター インターネットが社会に普及して久しい。どのような情報も素早く検索できるようになり、得られる情報も以前と比べて充実

ネットを利用して手軽にできるようになった。 その一方で、この「便利さ」によって(ア)ことも事実である。例えば、私たちは、インターネットに頼りすぎて、本来

考えなくてはいけないことを考えずに済ませようとしていないだろうか。その一つの例として、最近の大学生のレポートでよく

| 話題に上る「コピペ・レポート」を取り上げよう。

それに多少なりとも手を加えていればまだましなほうで、ひどい時には、~ケイサイされている内容を結論までそのままコピー り付け)」してレポートを作る。そのようなレポートを「コピペ・レポート」と呼んでいる。インターネット上の文章を読んで、 している場合もある。 そのテーマについて調べたことを知識として身につけてほしいと考えて、教員がレポートを課しているのに、学生たちはどこ 課題を出されると、一部の学生たちはインターネット上で見つけた課題に関する複数の情報を「コピー」し、それを「ペースト (貼 また、 前後の文脈を考えずにコピーして、 文体や論理が (ウ)を欠いたものも少なくない。

情報もあることを、まず知っておくべきである。 情報には、 少なからぬ数の学生が、インターネット上で簡単に得られる情報を安直に信じて、それに拠ってしまう。インターネット上 公的な団体や機関などが発信する比較的信頼性の高い情報がある一方、個人や私的な団体などが発信するそうでない

吹く風である。

課題について思考を巡らしたり、十分に分析したりして結論を導く。 それを知った上で、自分で考える。すなわち、収集した情報を自分の頭を使って整理する。さらに一歩進んで、それらをもとに、

失っていくものもあるのだと実感させられる ひと昔前までは当たり前だった、こうしたレポート作成の手順を、今や (工 もちろん、インターネットの普及だけがこうした事態を招いた原因ではないが、技術の進歩がもたらす「便利さ」と引き換えに、)学生に教えないといけない時代になっている



アに入る言い方として、 最も適切なものを選んで、番号で答えてください。

3 生活の質が低下した ■ 新しいものが生まれた

2 不可解な事態が出現している 4 弊害が生じている

イ「ケイサイ」を**楷書**の漢字で書いてください。

=

Ξ ウに入る言葉として、最も適切なものを選んで、番号で答えてください。

 社会性 2 主体性

匹

1 手取り足取り

2 至れり尽くせり

3 持ちつ持たれつ

4 おんぶにだっこで

3 整合性

4 自主性]

■に入る言い方として、最も適切なものを選んで、番号で答えてください。

号で答えてください。 次の1~4のうち、この文章に述べられている筆者の考えと一致するものを一つ選んで、番

五

↑ レポート作成の際は、まず、インターネット上で結論を探し出し、それにふさわしい情報を収集し、結論を補 強すべきである。

2 インターネットの普及によって簡単に情報を収集することができるようになったことが、「コピペ・レポート」 を生んだわけではない。

3 レポート作成の際は、 が肝要である。 情報の収集からそれを整理して結論に至るまで、作成者自身が十分に思案を巡らすこと

レポート作成に際し、 べきである。 情報収集の手段としてインターネットを使うときは、信頼性が低いので参考程度にする

4